



美作國一ノ宮
中山神社



中山神社年中祭典日

30 6月	29 4月	21 3月	17 11月	3 2月	3 1月
大祓式	御春季大祭 御田植祭	春分祭	祈紀節 年元祭	節分祭	元旦祭
15 1 毎月	31 12月	29 15日	3 11月	23 9月	18 7月
月次祭	除夜祭 大祓式	新嘗祭 七五三祭	御秋季大祭 御神幸祭	秋分祭	夏越祭

中山神社・周辺図



各地からの交通所要時間

- 津山IC・院庄ICより車で約15分
- JR津山駅より車で約15分
- JR岡山駅より車で約90分
- 岡山空港より車で約60分



中山神社々務所

〒708-0815 津山市一宮695
TEL.0868-27-0051 FAX.0868-27-2377

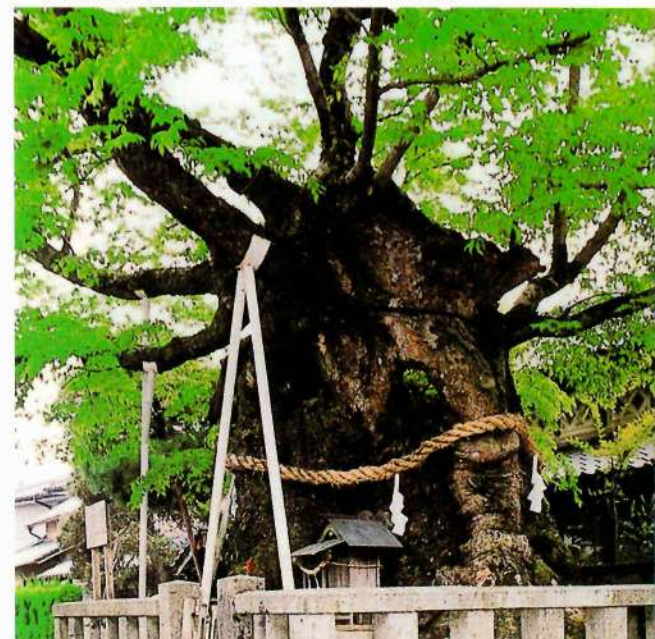
末社

- 総神殿（そうしんでん）
山上山下一〇社を合祀。寛保二年再建。御手洗川手前にあったものを大正二年移築。幸宮・宇都宮・小原神社をも合祀。
- 国司社（くにししや）
地主神として大国主命を祀る。社殿横には「鉾立石」があり国難の際、本殿に移し、祈念された。
- 御先祖社（みさきしや）
中山の神の祖神を祀る。中山の神の側にあつて供をするという義で、一般には稲荷神として信仰されている。
- 猿神社（さるじんじや）
今昔物語二六巻にみえる「中山の猿」の霊を祀るとされ、現在、猿田彦神として祀られる。牛馬の安産守護の神と信仰を受け、今も尚、ぬいぐるみの小猿を奉納する風習が残る。



● 猿神社々前

多くの願主によって奉納された、猿のぬいぐるみがある。



● 祝木（いはぎ）のケヤキ

当社々前、中山鳥居の前にそびえ立つ、高さ約10.5m・樹齢推定800年のケヤキ。



●本殿全景

あしひきの山を奇しみゆく水のさやけく清し中山の宮
 平賀 元義
 中山の中たえわたしめなはいにしへにこそ曳かへしけれ
 高崎 正風
 まかねふく吉備の中山弥高き神のみいつを仰く尊さ
 松岡 利起
 中山の神のみもろに昔より名にしあふちの花のさかりは
 丸山 莞爾
 牛馬も神まありする中山の高きみあつそ世にたくひなき
 源 千秋

中山神社 沿革



文武天皇慶雲四年（七〇七）の創祀。貞観六年（八六四）官社に列し、延喜式では美作国唯一の名神大社で此の国の一宮とされ、永保元年（一〇八一）には正一位の神階を授かる。

平安時代の代表的説話である「今昔物語」には当社の猿神伝説があり、鎌倉時代の後白河法皇の御撰にかかる「梁塵秘抄」では関西に於ける大社として安芸の厳島、備中の吉備津と共に肩を並べている。

国家非常時（元寇など）には勅命により特に全国七ヶ国の一宮（武蔵・上野・伊豆・駿河・若狭・美作・肥後）を選び、国家安穩を祈願せしめ当社も其の中に選ばれて祭祀を厳修したとされる。

建武中興破れて約四百年間は、美作国中戦乱の巷と化し、永正八年（一五一一）と天文二年（一五三三）の両度に祝融の厄に遭い宝物・古文書等悉く焼失したが、永禄二年（一五五九）に至り、出雲国尼子晴久が戦捷報賛の為、社殿を再建し歴代藩主の崇敬厚く、「一宮さま」と親しまれ、明治四年（一八七二）六月には、国幣中社に列格す。

現在も、鍛金・冶工・採鑛等の守護神、農耕・牛馬の守護神として広く崇敬されている。

御祭神

●主祭神

鏡作神（かがみづくりのかみ）

鏡作部の祖神石凝姥神の御神業を称えた御名

●相殿神

石凝姥神（いしこりどめのかみ）

天孫降臨の五部神 八咫鏡を造りませる神

天糠戸神（あめのぬかどのかみ）

石凝姥神の父神



●中山鳥居、表参道

中山神社の鳥居は、両柱を支える貫はあるが、その柱より出た部分は木鼻と云いますが、その木鼻が全くないため全国的に珍しく評価されています。花崗岩製で、高さは約11メートル。寛政三年（1791）の作。

社殿

現社殿は、永禄二年（一五五九）出雲国富田城々主尼子晴久戦捷報賛の為、十八年の歳月をかけ、再建されたもの。

本殿は単層入母屋造妻入・桧皮葺にて間口五・五間、奥行五・五間、建坪約四一・五坪の宏壮雄大なもので大正三年国指定重要文化財。

これに巾二・五間、入三間の向拝を附し釣殿を介し、入母屋造平入・桧皮葺の拝殿へと連ねた形式を他地方に例のないことから「中山造」と呼び美作の多くの神社の模範とされた。



●鍛振り神事 4月29日のお田植祭

境内で白装束に黒烏帽子を付けた氏子十二人が笛や太鼓に合わせ、参道の石畳の上を田んぼに見立てて木鍛を頭上で振り回してから地中に打ち込む様子を繰り返します。古くから農耕・牛馬の守護神として美作一円から崇敬されています。また、『今昔物語』の中にも、当神社の猿退治の説話が面白く紹介されています。